



# 響

## ひびき Vol.5



一人で。



画面を、一緒に。



ノートを、一緒に。



また、一人で。

# 手放す

### Hibiki vol.5 「手放す」

- ✎ “授業から学ぶ”
  - ・ 対話が始まる。対話が弾む。
  - ・ 主体的に学習に取り組む授業づくりの工夫
- ✎ “研修の窓”
  - ・ 手放してつながる（第2回研究主任研修会）
  - ・ 授業づくり、学級づくり研修会へ参加してみませんか
- ✎ “考える部屋”
  - ・ 教育における「不易」と「流行」を考える
- ✎ “SSWの笑門来福”
  - ・ SSWの実践
  - ～ヤングケアラーに必要な支援とは～
- ✎ “生涯学習課より”
  - ・ 大人と子どもと一緒に楽しむペットボトルロケット

手放して、ゆだねる

手放して、みまもる

手放して、おいかける

手放して、みつける

手放して、はじめる



授業から学ぶ  
特別の教科 道徳  
6年生の対話



## 対話が始まる。対話が弾む。 ~そのために、何を手放し、何をするのか~

「考え、議論する」道徳において、対話は、子供が自らつかむ納得解に至るための鍵になります。ここでは、子供の対話の姿を通して、私たちが何を手放し、何をすべきなのかを考えてみましょう。

授業において、子供たちに話し合いや対話を促して委ねることに、どうしても踏み切れなかったのですが、今回はじっくりとやってみようと思いました。



○6年教材「みんな、おかしいよ」より（内容項目：相互理解、寛容）

和花は、友達の本紀に日頃から『言い方がきつい』と感じていたが、話を合わせて付き合うことを良しとしていた。絵里子は、そんな和花の態度に対して「信用できないな」と言い、真紀に言い方を変えるように説得をしに行く。和花は、そんなことを伝えたら真紀が怒るだろうと思っていたが、真紀が絵里子に対して「くせになってた。ありがとう」と返すのを見て、「おかしいよ」と感じる。



B: 本当のこと言われたら、嫌な気持ちになるから。  
C: 思ったこと言われちゃったらね。  
B: Aさん、何かある？  
A: なんか、絵里子が離れちゃうのわかるな。  
B: 友達を大切に思うってのはいいけどさ。  
A: なんか、見方が間違ってる。

和花はどうして、本当のことを言ったら、友達がへるって思ったんだろう。

B: Cさんは、「私のこと間違ってる？」って言われて違っていたら、本当のこと言う？  
C: いや……言えない…。  
A: う〜ん。私は間違っていたら…言うかな…。  
B: じゃあAさんは、この時は言えるの？  
A: えっ…、この時は、言えない…かな。  
B: なんか、自分の非を言われるとイラつきそう。関係が悪くなるかも。真紀はなんで？



時間を保証しよう。どんな問いが膨らんでいくのか探ろう。しっかり見取って次の発問につなげよう。

何で関係が悪くならなかったんだろう。ありがとうって言ったときの真紀はどんな気持ち？

B: Cさんは真紀の「ありがとう」をどう思う？  
C: 絵里子が自分に教えてくれたから？  
B: 私も同じ。Aさんはどう？  
A: 私なら怒る…嫌かも…。  
B: 絵里子みたいに言い方が優しくしたらどう？  
A: ありがとうじゃなくて、こめんって言うかも。  
B: え〜、どうだろう。やっぱり、自分の良くないところを言ってくれる存在って、ありがたいよねえ。良くないままですっといるより。  
A: うん〜。逆に許してくれるとね。もし怒って言ってきたら、ありがとうは言えない。  
B: 受け入れるって大切か。

こんなにも語っていたのですね。子供ってすごい。何がよかったのでしょうか。これからどう生かしていけばいいのでしょうか？



子供は語る力を備えていますね。Bさんの強い問いが対話を動かし、道徳的価値の大切さや難しさについて考えています。導入でどのように問題意識を高めたのか、教材を読んだ後に、互いに感じたことをどのように共有して問題点を語り合ったのかなどを振り返ってみてください。



子供はもともと追求する力を備えているものだと信じ、対話の時間を十分に設けるために、先生は問いを立てることに注力しました。それによって、対話の中での介入を手放し、子供たちの追求する力に委ねることができました。



## 授業から学ぶ (中2・国語) 「書くこと」



# 主体的に学習に取り組む授業づくりの工夫 ～「教師が」を手放し「生徒と・生徒が」へ～

A先生は、生徒と一緒に単元の見通しを立てたり、生徒が試行錯誤しながら学習する展開を工夫したりして、生徒が見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返り、次につながる授業づくりをしていました。

単元名：多様な方法で情報を集め、R中版『14歳のハローワーク』を作ろう

職場体験学習を振り返り、同学年の友達や、来年度学習する中学1年生に向けて、いろいろな職業やその職業の魅力について知ってもらうために『14歳のハローワーク』を書いていきます。

### ポイント 単元の言語活動の見通しを生徒と共有する

A先生は、単元の導入でGoogle Formsを使い、職業について生徒の意識を調べ、結果をもとに生徒と話し合い、単元の進め方を決めました。生徒は「お仕事図鑑を作る」という言語活動の見通しをもち、熱心に図鑑作りを進めました。

### ポイント 育成する資質・能力を生徒と共有する

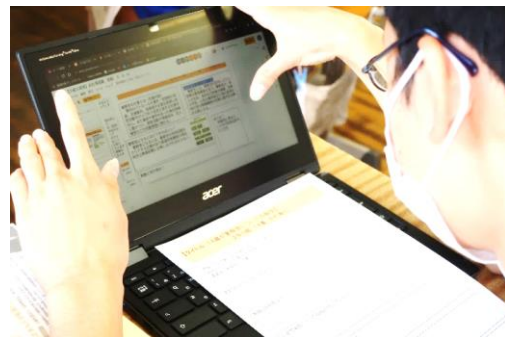
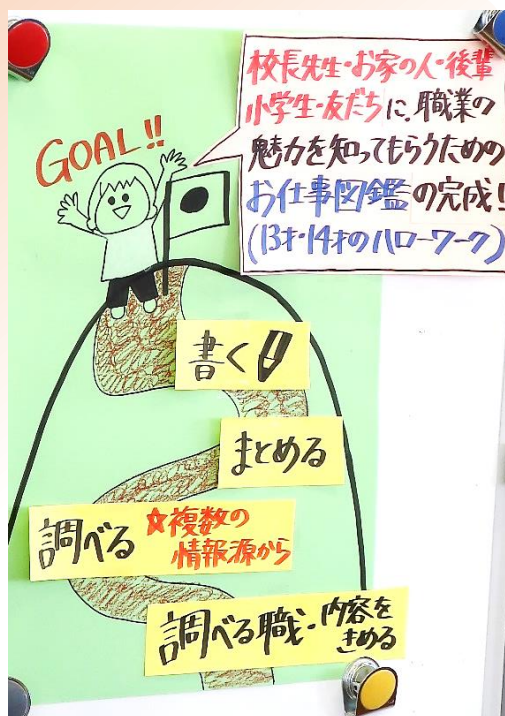
A先生は、活動の見通しをイラストにして掲示しました。その時に、活動を通して「複数の情報源から材料を集め、様々な表し方で整理し、文章にまとめる」という、育成する資質・能力について共有していました。生徒は「図書館の本以外にクロームブックで調べていいですか？」などと、自ら学習の進め方を考え、取り組もうとする姿につながりました。

### ポイント 生徒が学習の進め方を選べるようにする

A先生は、生徒が図書館やインターネット等、複数の情報源から自由に情報を集められるようにしました。生徒は目的に応じて集めた情報を、自分たちで決め出した『14歳のハローワーク』に載せる項目に沿って、自分で観点を考えながら付箋ツールで情報を整理していました。

### ポイント 生徒が自己の学び方を振り返る工夫をする

振り返りの場面で、A先生は前時の文章をプリントしたものを配付しました。生徒は本時に書いた文章と見比べながら「いろいろな方法でたくさん調べたことを、写真や付せんで分かりやすくまとめることができました。『警察官になるには』の項目には、読む人に分かりやすいように画像を入れました」など、自らの学びの成果を実感した振り返りを書いていました。

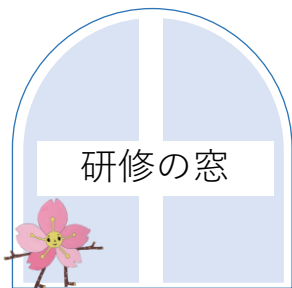


A先生

これまでを振り返ると、学習の見通しや活動内容を教師が細かく設定したり制限したりして、「教師が進める・まとめる授業」が多かったように思いますが、本単元を通して「生徒と一緒に学習の見通しを立てること」や、「生徒に任せる部分・試行錯誤しながら生徒が気づいていけるような展開を増やし、私はそのサポートをしたり、一人ひとりを橋渡ししたりするような授業」を大切にしていきたいと思うようになりました。

「全て教師の計画通りに進めたい」という思いを手放して生徒に委ねることで、生徒が主体的に学習に取り組む姿につながりました。A先生の振り返りにある、「教師が」から「生徒と・生徒が」という言葉に、大きなヒントがあるように思います。





# 手放して つながる ～第2回 研究主任研修会（オンライン）～

校内研究の旗振り役である研究主任の先生。周りの先生の忙しさも分かるから、ついつい「自分がやるべき」とか「自分の仕事」として抱えこんでいませんか？  
抱えているモノ、少し手放してみませんか？

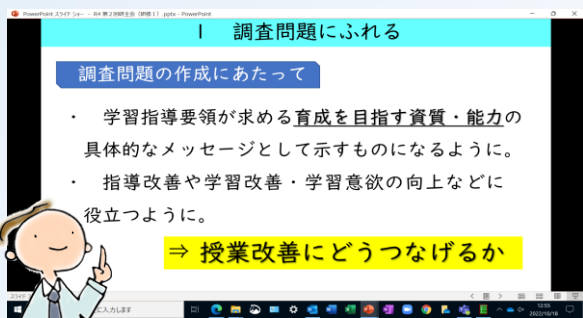
<8月26日 第2回研究主任研修会>

全国学力学習状況調査は、実施した6年生や次年度に取り組む5年生の担任だけが関わり、結果だけを見ているような気がします。



研究を進めていても、研究主任、授業者、部会の先生が繋がっている気がしないです。

## 研修Ⅰ 全国学力学習状況調査からの授業改善 ～なんのための調査？～



「資質・能力の育成」「授業改善につなげる」という調査の目的を考えると、この調査は、該当学年のみならず、校内の先生方全員に関わることだと思いました。

学校全体で実際の調査問題を解いて、問題の意図を考え合い、「授業改善に生かしたい」と思いました。

## 研修Ⅱ 後期の校内研究の展望をひらく ～誰の研究？何のための研究？～

事例：研究部会の司会を輪番制へ  
先生方の困り感を捉えて自由参加学習会を開催



先生方が共に学び合う  
雰囲気広がっていった。

研究の目的を共有し、先生方の学びの場をつくる工夫を考えてみましょう。

- ★全職員で「願う子ども像」について語る
  - ★個人研究テーマが似ているグループで研究をすすめる
  - ★授業公開の後、語り合う場を作り、フィードバックする
  - ★板書画像の見せ合い
  - ★自由参加型の会の設定
- 等々



「研究はこうあるべき」を自分の中から排除し、先生方とつながり、共に考え合っていきたい。



先生方に学びのある研究になればいいな。目指す子どもの姿を共有し、全職員でその姿を目指していきたい。

先生方の学びは、子どもに還元されます。先生同士が考え合って、よりよい授業をつくらうとする姿勢は、きっと子供たちにも伝わっていくのではないかと思います。

全国学力学習状況調査を授業改善に生かすことも校内研究も、すべて子供へ還るもの。研究主任が抱えていたモノを少し手放し、みんなのものにすることで、先生方がつながり、目指す子供の姿の具現に向かい、日々の授業改善に取り組むことができるのではないのでしょうか。





## 研修の窓

# 授業づくり、学級づくり研修会へ 参加してみませんか

今年度、これまでに3回の「授業づくり、学級づくり研修会」を行いました。第3回の様子と、次回今年度最終回のお知らせです。

## 考えよう 全員が力を発揮し、認め合う学級づくり（基礎研修）

前半は、「教育課程編成・学習指導の基本」通称青本をもとに、学級づくりの土台について、教室が安心できる居場所となるにはどのようなことが大切かなどを考えました。参加者の先生方からは、「今まではクラスにいる子どもたちの気になるところばかりに目が向いてしまっていた。私自身が、子どもを認める視点をもつことで、クラスの中にもお互いを大切に思う雰囲気が生まれて、何か温かい学級になっていくのではないかと思うようになりました」との声が聞かれ、早速これからの実践につなげようとする姿が見られました。



## 明日の実践につながる授業づくり（教科等分科会）

後半は、教科等に分かれ、実際の授業場面を決めて授業構想を行いました。その中で、「普段の授業では、子どもが主体的に取り組む場面が少ない」などの悩みが出されました。参加者や指導主事から、例えば導入場面で資料の提示を少し工夫をし、今までの学習との違いを明確にすると子どもは問いをもって追究するのではないかとアドバイスを受け、子どもの姿を思い浮かべ、授業を考える姿が見られました。



<参加した先生の振り返り>

- 子どもの疑問から始まり、授業を通して、それがわかったと思えるような、楽しく充実感のある授業づくりを考えていきたくなりました。
- 授業や単元の目標、ゴールを明確にしていくことが大切だと思いました。そして、子どもの思いやつぶやき、気づきをつなぎながら授業を進めていきたいです。

## 《次回の予定》 第4回：11月28日（月）14:10～16:45

- 基礎研修「見つめよう！子どもの困難さとその支援」（困難さに配慮した授業の具体）
- 教科等分科会（授業づくり演習、日頃の悩みや課題についての情報交換など）

今年度最後の開催になります。先生方のご参加をお待ちしています！

今回は、申し込みのない先生の当日参加も可能です。ぜひ、ご参加ください。



## 「ちょこっと相談会」への申し込みもお待ちしています

学級や授業のこと、教師としての悩みなど相談内容は何でも構いません（これまでは授業づくりについてご相談いただきました）。日時に関しては、申し込みをしていただいた先生と担当指導主事で相談の上、決定します。

どんな些細なことでも全力でサポートします。ぜひお気軽に申し込みください。  
申し込みは、Fax (0267-31-0140) または、電話 (0267-31-0251) にて担当の綱川までお願いします。



## 考える 部屋

# 教育における「不易」と「流行」を考える

～時代を超えて変わらないもの・時代とともに変わるべきもの～

今回の「考える部屋」では、先生方ご自身に、実際に考えていただくことができるようなページにしました。研修の時間等に、下のワークシートをご活用いただきながら話題にし、「教育の本質」を考える機会にしていただければ幸いです。

変化の激しい現代社会。しかし、どんなに社会が変化しようとも、時代を超えて変わらないもの（不易）があります。もちろん、社会の変化とともに変わるべきもの（流行）もあります。予測が困難な時代となっている今こそ、教育における「不易」と「流行」を考えることで、私たちが絶対に手放してはいけないものや手放すべきものが見えてくるのではないのでしょうか。



例えば、次のようなことを話題に「不易」と「流行」を考えてみましょう。

### テーマ例 ①「学校が担う役割」

【ご自身のお考え】

【他の先生方のお考え】

### テーマ例 ②「教師の使命」

【ご自身のお考え】

【他の先生方のお考え】

テーマ「

」（各校で決めてください）

【ご自身のお考え】

【他の先生方のお考え】

# SSWの 笑門来福

みんなの笑顔のために



## SSW（スクールソーシャルワーカー）の実践 ～ヤングケアラーに必要な支援とは～

今回は社会問題となっております「ヤングケアラー」。その背景や課題について考えてみたいと思います。

### ヤングケアラーの背景にあるもの

貧困、虐待、きょうだいの世話、  
家族の介護など

子どもの年齢や成長に合わない  
不適切なものになっていないか？

「ケアラー」である前に  
子どもであるという視点

家庭の中は見えにくい。  
学校でできることは？

ヤングケアラーは社会の課題であること  
の共通認識と理解を持ち、本人だけでなく、  
ご家庭全体に対する支援を考えていく  
ことが大切

### ヤングケアラーの課題

表には  
介護者として  
見えない

ケアラー  
としての  
自覚がない

長期化すると学校生活や進路にも影響を与える  
ことがある。  
子どもが学校の先生方にお手伝いの内容や家庭  
の状況を話しているうちに外部機関とつなぐ  
ことが重要。

ヤングケアラーの経験の全てを否定するつもりはありません。家族が助け合うことは  
良いことです。家族の幸せを考えながら子どもたちが自分自身の人生を歩めますように。



## ひとりで なやまないで ～だれかに話してみよう！～（2022年7月現在）

### 総合相談窓口

- 長野県子ども支援センター  
(長野県子ども若者局子ども・家庭課)  
子ども専用無料電話 0800-800-8035  
大人専用 026-225-9330  
子どもに関する相談全般に応じています。〔月～土 10:00～18:00〕

### 学校教育、いじめ、不登校など

- 学校生活相談センター（24時間子どもSOSダイヤル）  
(長野県教育委員会心の支援課)  
0120-0-78310  
いじめや不登校など学校生活に関わる相談に応じています。〔24時間〕
- 電話教育相談

### 子どもの非行などの問題行動

- 少年サポートセンター ヤングテレホン  
警察本部 026-232-4970  
長野中央警察署 026-241-0783  
松本警察署 0263-25-0783  
上田警察署 0268-23-0783  
伊那警察署 0265-77-0783  
少年相談専門職員や警察官が、子どもの非行、いじめや犯罪の被害に  
関する相談に応じています。  
〔警察本部：24時間 ※執務時間外は当直が対応〕  
〔その他警察署：月～金 8:30～17:15〕
- 警察安全相談（警察本部広報相談課）  
026-233-9110 または #9110  
犯罪等による被害の未然防止、DV(配偶者間暴力)、ストーカー被害等  
に関する相談に応じています。〔24時間〕

これは、相談窓口一覧表「ひとりでなやまないで」（一部抜粋）です。先日、各中学校へ  
長野県教育委員委員会より「生徒のための相談窓口の生徒手帳への掲載について」（依頼）を  
送付しました（10月12日付「4教心第227号」）。来年度の生徒手帳等に電話番号等を掲載し、  
生徒の皆さんに積極的に活用していただきたいと思います。

# 「大人と子どもが一緒に楽しむペットボトルロケット」 ～新しいCS活動を始めるヒント～

ある小学校で、土曜日に行われた「地域参観日」の下校時に合わせて「ふれあいタイム」と題し、「『ペットボトルロケット』を楽しもう」が行われました。



この活動はどうして始まったの？

コロナ禍で子どもの活動がいろいろと制限される時期が続いています。

### <学校の願い>

子ども達と地域の方との交流の場をつくりたい



### <PTA会長の願い>

子ども達に楽しいと思ってもらえるような活動がしたい

PTA会長が学校に相談したのが始まりです。今回は初めての取組なので、大人と子どもとが触れ合うきっかけになればよいと思います。大人も一緒に楽しめることが大事だと思います。（校長先生のお話より）



活動の様子から



ロケットが突然飛び上がったり、発射レバーを引いても飛ばなかったりとハプニングがありましたが、ロケットが飛ぶたびに子ども達だけでなく大人達からも歓声が上がりました。子ども達は、最初はロケットの発射レバーを握るだけでしたが、慣れてくるとロケットに水を入れる、発射台にセッティングする、飛んだロケットを回収するなど、様々なことを自ら進んで行うようになりました。

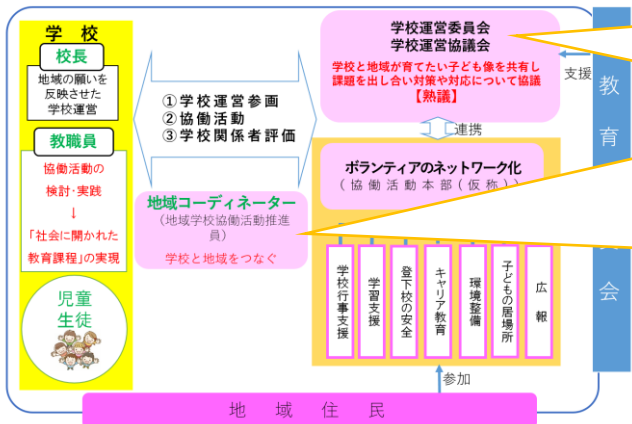


今後の見通しは？

新しい活動を授業時間内に計画するのではなく、参観日の下校時間に合わせて自由参加にしたので、無理なく実施することができました。今回と同じ参観日の下校時間、2時間目休み、清掃がない日の放課後などの「ふれあいタイム」を利用して地域の方や保護者と子ども達が交流する活動を広げていきたいと思っています。（教頭先生のお話より）



## 信州型コミュニティスクール（信州型CS）



### 【活動前に】

学校とCS活動を行いたい人で内容や時間を相談しました。無理なく活動するコツは「できる人が、できるときに、できること」です。

### 【活動後】

子ども達だけでなく、多くの大人に活動を知ってもらう機会になりました。

後日学校のHPで発信された活動の様子では、今後行いたい企画の募集にも触れられています。また、他の活動へのボランティア参加募集も発信しています。一緒に活動を楽しんでもらうことや情報を発信することで、今後のボランティア活動に関わりたいと思う方が増えることが期待できます。